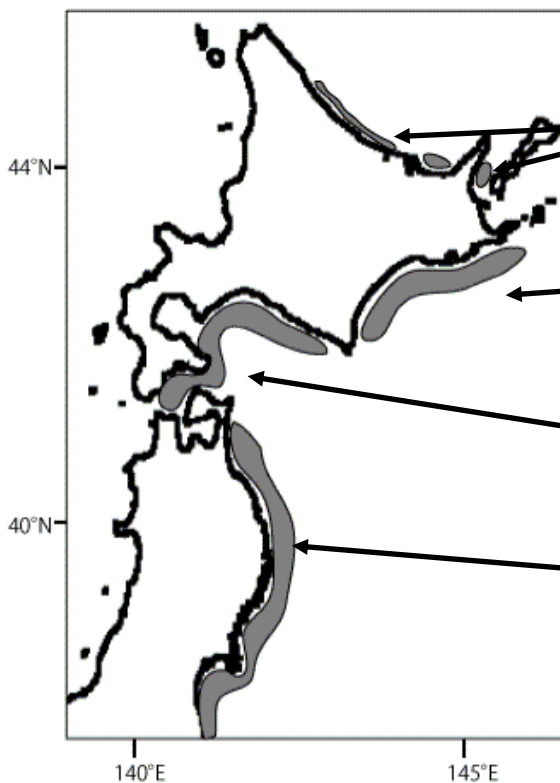


平成25年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成25年10月～12月)のポイント



常磐以北太平洋海域の来遊量は、
一部海域を除き、概ね前年並みか下回る。

根室海峡～オホーツク海：
来遊量は前年を上回る。
魚体は前年より大きい。

道東太平洋周辺海域：
来遊量は前年並み。
魚体は前年並み。

津軽海峡～道南太平洋周辺海域：
来遊量は前年並み。
魚体は前年並み。

常磐～三陸周辺海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前半は前年より小さく後半は前年並み。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

担当：野上、秋山

電話：011-822-2131、ファックス：011-822-3342

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

平成 25 年度 第 2 回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2013年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋周辺海域、根室海峡～オホーツク海、常磐～三陸周辺海域、
津軽海峡～道南太平洋周辺海域。

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網。

対象魚群：主に冬季発生系群（2013年級群）。

1. 道東太平洋周辺海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量 : 前年並み。
- (2) 漁期・漁場 : 10月まで漁場が形成される。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

- (1) 来遊量 : 前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場 : 10月～11月が漁期の中心となる。
- (3) 魚体の大きさ : 前年より大きい。

3. 常磐～三陸周辺海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量 : 前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場 : 予報期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体の大きさ : 予報期間の前半は前年より小さく、後半は前年並み。

4. 津軽海峡～道南太平洋周辺海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量 : 前年並み。
- (2) 漁期・漁場 : 予報期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体の大きさ : 前年並み。

今後の見通しおよび漁況の経過（2013年7月～8月）の説明

（1）今後の見通しの説明

本年8月までの漁況の経過、8月～9月に実施された第2次漁場一斉調査および道東太平洋スルメイカ資源調査の結果、5月～6月に実施された新規加入量調査の結果を主要な情報として、本予報期間である10月～12月の常磐以北太平洋海域への来遊量を予測した結果、一部海域では前年を上回るものの、概ね前年並みか下回ると予測される。なお、本予報期間に常磐以北太平洋海域から津軽海峡を經由して日本海へ回遊するスルメイカの入遊量は前年並みか下回ると予測される。津軽海峡経由で日本海へ回遊する時期は、海面水温が著しく高かった前年より早めと推測される。

・道東太平洋周辺海域での漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。道東太平洋周辺海域における調査船のCPUE（いか釣り機1台1時間当り漁獲尾数）は前年を上回った。8月～9月の道東太平洋マサバ・マイワシ漁期中調査（流し網）で漁獲されたスルメイカのCPUE（流し網調査1回当たりの漁獲尾数）は前年を下回った（北海道立総合研究機構釧路水産試験場）。小型いか釣り船による道東主要港への水揚げ量およびCPUEは7月～8月は前年並みであった（表1）。新規加入量調査（表中層トロールネット）の結果は前年を下回った。以上のことから、本予報期間における道東太平洋周辺海域への来遊量は前年並みと予測される。近年、道東太平洋周辺海域における漁獲量は11月には大きく減少することから、主漁期は10月で終了すると予測される。魚体の大きさは、道東太平洋での調査結果から前年並みと考えられる。

・根室海峡～オホーツク海域での漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。道東太平洋いか釣り調査における釧路以東のCPUE、7月の国後島南東の海面水温（気象庁資料）および8月までに釧路港へ水揚げした小型いか釣り船のCPUEを用いた漁獲量予測結果から、根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年を上回ると予測される（北海道立総合研究機構釧路水産試験場資料）。オホーツク海沿岸の表面水温は前年より低めに推移しているため、主漁期は10月～11月と予測される。魚体の大きさは、釧路以東での調査結果から前年より大きいと考えられる。

・常磐～三陸周辺海域での漁獲対象資源は、三陸～津軽海峡周辺海域に分布する群と道東太平洋周辺海域から南下する群が主体と考えられる。一斉調査の三陸周辺海域におけるCPUEは前年を上回り、津軽海峡周辺海域では前年を下回った。7月～8月の青森県白糠以南における小型いか釣り船のCPUEは前年を下回った（表1）。道東太平洋周辺海域の入遊量は前年並みと予測される（前述）。以上のことから、常磐～三陸周辺海域の入遊量は前年を下回ると予測される。魚体の大きさは、一斉調査の結果から予報期間の前半は前年より小さく、後半は前年並みになると考えられる。

・津軽海峡～道南太平洋周辺海域での漁獲対象資源は、道東太平洋周辺海域からの南下群と津軽海峡～道南太平洋周辺海域に分布する群が主体で、津軽暖流の勢力減少に伴う水温低下により、津軽海峡を經由し日本海に移動すると考えられる。道東太平洋周辺海域への来遊量は前年並みと予測される（前述）。津軽海峡周辺海域における一斉調査CPUEは前年を下回った（前述）。2012年には津軽暖流の下北半島東方への張り出しが強く、

10月の津軽海峡東口周辺海域において漁場が形成されにくくなったが、今年の津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、現状平年並みである（平成25年度東海区海況予報 第3号 北海道区水産研究所、東北区水産研究所）。10月以降も同様と仮定すると、津軽海峡東口周辺海域において、前年より漁場は形成されやすいと考えられる。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋周辺海域の来遊量は前年並みと予測される。魚体の大きさは、一斉調査の結果から前年並みと考えられる。

(2) 調査結果

A：第2次漁場一斉調査および関連いか釣り調査

8月上旬～9月上旬に実施された漁場一斉調査（北海道立総合研究機構函館水産試験場、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター）および道東太平洋スルメイカ資源調査（北海道立総合研究機構釧路水産試験場）の結果（図3）、道東太平洋周辺海域（42° N以北、143° E以东）の平均CPUEは16.27尾であり、前年（7.64尾）を上回った。三陸周辺海域（41° N以南、143° E以西）は2.37尾であり、前年（0.19尾）を上回った。津軽海峡～道南太平洋周辺海域（41° N以北、143° E以西）は1.86尾であり、前年（2.97尾）を下回った。調査海域全体では5.42尾で、前年（2.99尾）を上回った。

調査船調査で漁獲されたスルメイカの外套背長組成は、モードが21cmにある単峰型の組成で、前年（20cm）とほぼ同様であった。海域別に見ると、道東太平洋周辺海域はモードが21cm（前年：20cm）、三陸周辺海域は18cm（前年：20cm）、津軽海峡～道南太平洋周辺海域がモード21cm（前年：22cm）で、三陸周辺海域は前年より小さいが、他の海域では前年と同様であった（図2）。

B：新規加入量調査

5月～6月に実施された常磐～三陸周辺海域および沖合域における新規加入量調査（中央水産研究所、北海道区水産研究所）の結果、本予報期間に加入すると予想される外套背長5cm未満の個体の平均漁獲尾数（30分曳網当たり漁獲尾数）は10.8尾で、前年（26.9尾）を下回った（前年比40%）。

(3) 近年の資源および漁獲状況

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群が主体であり、これに秋季発生系群の一部が含まれる。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から判断すると、1970年～1980年代は低位水準で推移した。1989年から増加に転じ、1996年（年間漁獲量：27万6,000トン）が最も資源水準の高い年となった（図4）。1990年以降は高位から中位水準で推移しており、直近2年の漁獲量は2011年に大きく増加したが（16万4,000トン）、2012年には減少した（9万9,000トン）。

主漁場は常磐以北太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域と津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海域に区別される。2012年10月～12月の常磐以北太平洋海域での漁獲量（生鮮）は4万5,300トンで、常磐～三陸周辺海域では1万6,800トン、津軽海峡～道南太平洋周辺海域では7,700トン、道東太平洋周辺海域では3,900トン、根室海峡～オホーツク海では1万6,900トンであった（図2）。なお、近年の漁獲量のピークは10月～11月である。

(4) 2013年の各海域の漁況経過（7月～8月、一部集計中）

2013年7月～8月における太平洋沿岸の主要港での水揚げ量（生鮮：各道県の速報値等の集計による）は1万5,100トンで、前年同期（2万7,100トン）を下回った。道東太平洋周辺海域は4,200トンで、前年（3,200トン）を上回り、常磐～三陸海域周辺海域での水揚げ量は7,500トンで、前年（1万4,200トン）を下回り、津軽海峡～道南太平洋周辺海域の水揚げ量は3,500トンで、前年（9,600トン）を下回った。各地域の詳細な漁況経過は表1に示す。

表1. 漁況経過（2013年6月～8月、一部未集計）

	漁況経過
北海道 道東	7月～8月の道東主要港（十勝港、釧路港、花咲港）における釣り漁業による水揚げ量は、3,376トン（前年比118%）で、CPUEは前年比84%であった。
北海道 道南	8月の函館港における釣り漁業による水揚げ量は157トンで前年比44%、CPUEは前年比53%であった。釣り漁業により水揚げされたスルメイカの外套背長モードは、8月に19cm（前年：19cm）、9月に21cm（前年：21cm）で前年並みであった。南茅部における定置網による8月の水揚げ量は40トン（前年比18%）であった。8月の浦河港における釣り漁業による水揚げ量は825トン（前年比42%）で、CPUEは前年比62%であった。
青森	7月～8月の大畑港における釣り漁業による水揚げ量は190トンで前年比42%、CPUEは前年比52%であった。7月～8月の白糠港、八戸港への釣り漁業による水揚げ量は、それぞれ441トン（前年比58%）、959トン（前年比67%）であった。CPUEは白糠港では前年比64%、八戸港では68%であった。7月～8月の八戸港へのまき網漁業による水揚げ量（4,361トン）は、前年（9,614トン）を下回った。八戸港で釣り漁業により漁獲されたスルメイカの外套背長モードは7月に17cm（前年：20cm）、8月に19cm（前年：20cm）で前年より小型であった。
岩手	7月～8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量は1,238トン（前年比60%）でCPUEは前年比86%であった。定置網漁業による水揚げ量は370トンで前年比137%であった。
宮城	7月～8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量は54トン（前年比68%）で、CPUEは前年比102%であった。定置網漁業による水揚げ量は39トンで前年比118%であった。
福島	この期間の水揚げはなかった。
茨城	6月の主要港における沖合底びき網漁業による水揚げ量は2.4トン（前年比243%）、小型底びき網漁業による水揚げ量は1.3トン（前年比75%）であった。CPUEはそれぞれ前年比243%、130%であった。なお、7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。
千葉	7月の主要港における定置網漁業による水揚げ量（1.0トン）は、前年（0.9トン）並みであった。釣り漁業による水揚げ量（16トン）は、前年（31トン）を下回り、CPUEは前年比64%であった。
神奈川	8月の主要2港における釣り漁業による水揚げ量は0.3トン（前年比88%）であった。

表1の続き

静岡	8月の主要港における釣り漁業による水揚げ量は6トンで（前年比172%）、CPUEは前年比103%であった。
三重	8月の主要港におけるまき網漁業による漁獲量は4トン（前年比151%）で、定置網漁業による漁獲量は0.1トン（前年比72%）であった。
和歌山	8月の主要港における釣り漁業による水揚げはなかった（前年18トン）。
高知	8月の主要3港における釣り漁業による水揚げ量（22トン）は前年（5トン）を上回った。

注：CPUEは1日1隻当たり漁獲量

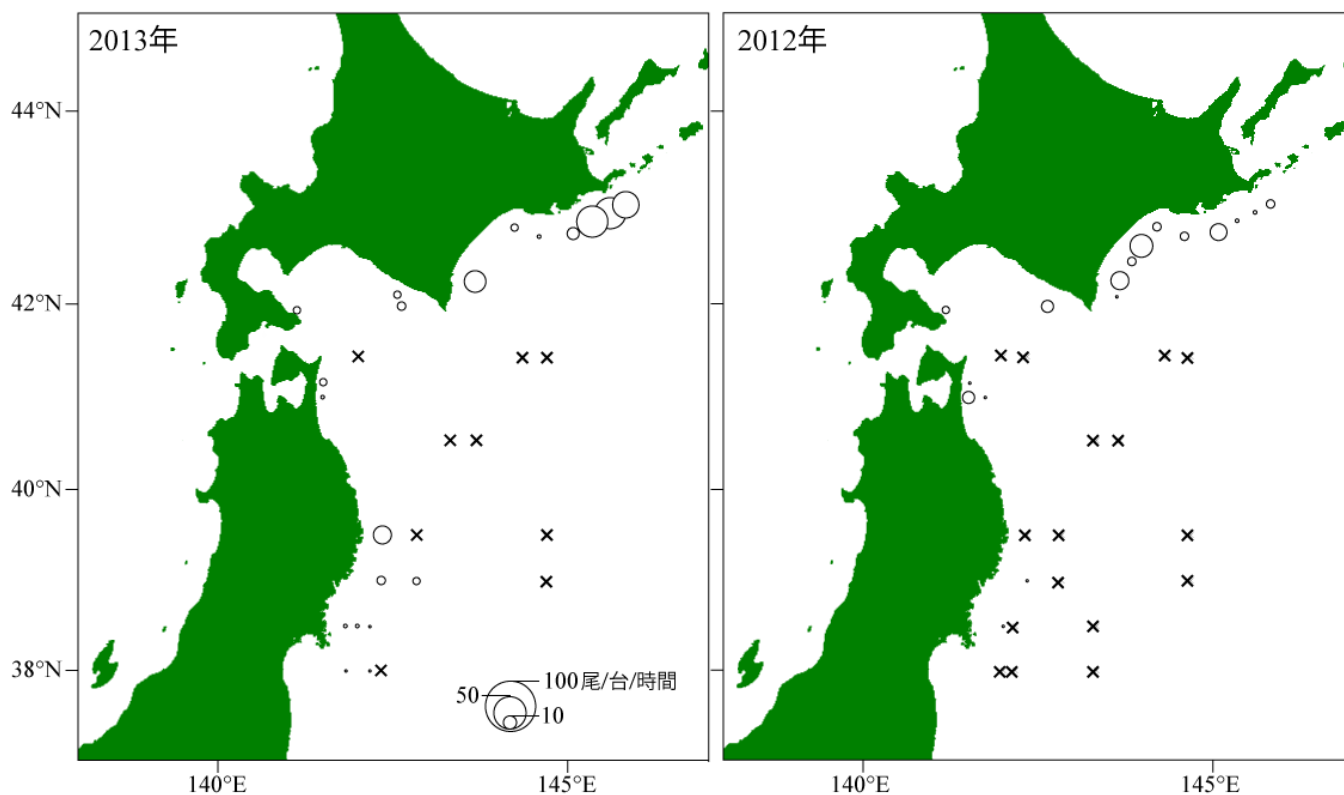


図1. 2012年と2013年の第2次漁場一斉調査および道東太平洋スルメイカ資源調査（8月～9月）における調査点とCPUE（釣機1台1時間当たり漁獲尾数）、×は漁獲なしの調査点

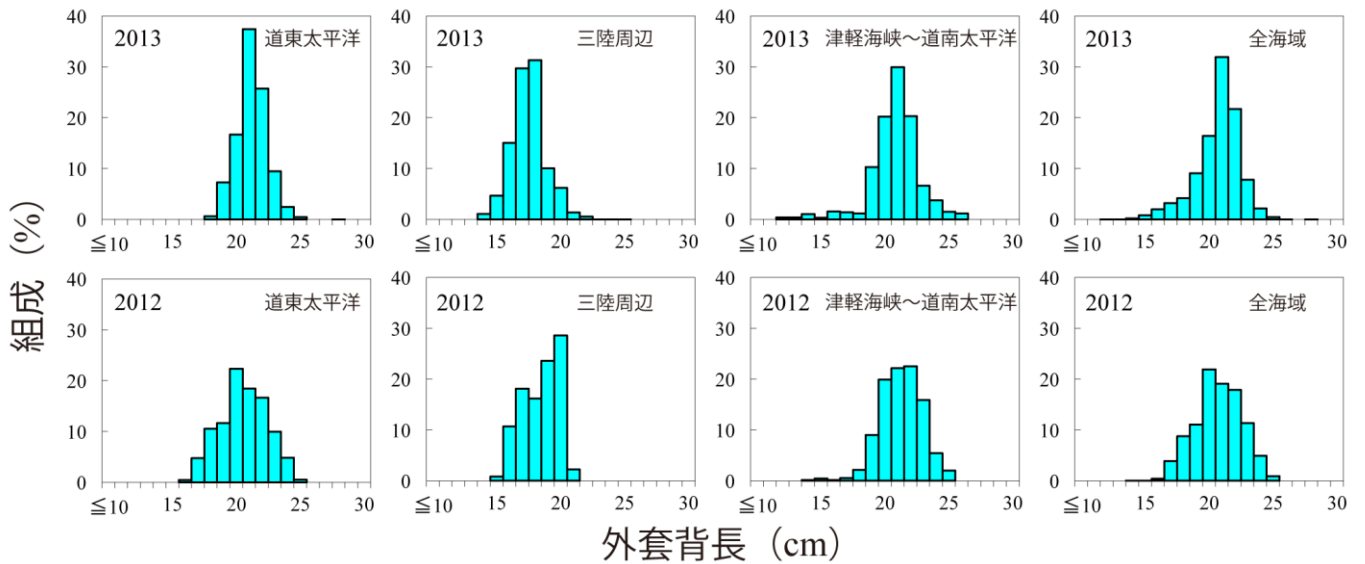


図2. 2012年と2013年に第2次漁場一斉調査および道東太平洋スルメイカ資源調査で漁獲されたスルメイカの海域別外套背長組成

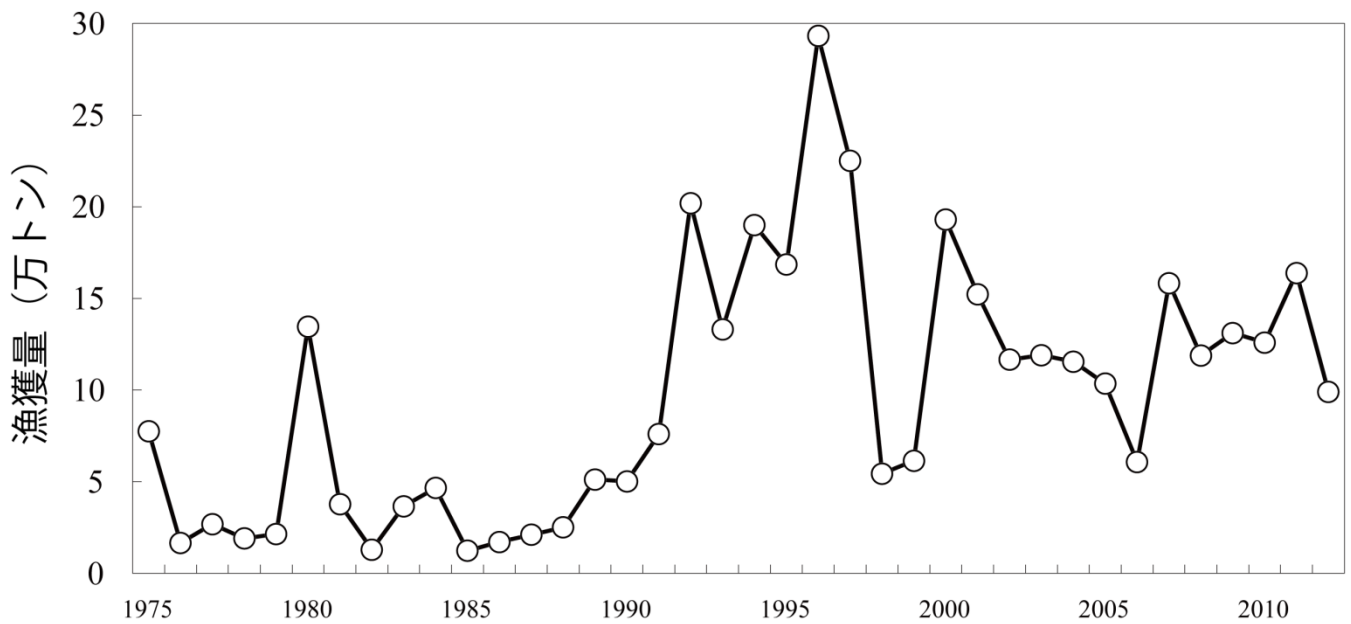


図3. 太平洋におけるスルメイカの年別漁獲量の推移
(集計値は暦年)

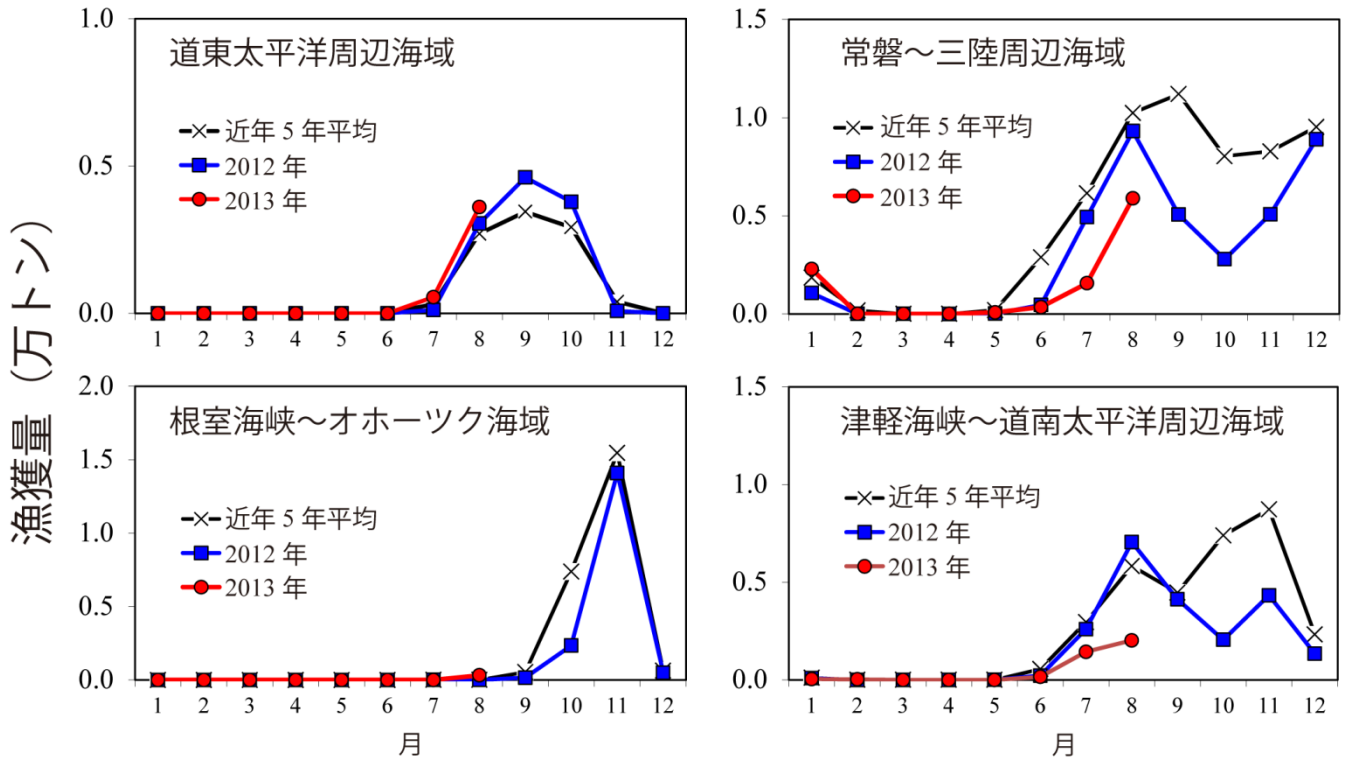


図4. スルメイカの月別海域別漁獲量 (生鮮、釣り・底びき網・定置網・まき網)
 近年5年は2008年～2012年

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
福島県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
茨城県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	日本海区水産研究所 中央水産研究所
神奈川県水産技術センター	(取りまとめ機関)
静岡県水産技術研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所